GCsolution Ver.2.3の主な追加機能

GCsolution Ver.2.3で追加した機能のうち主なものは下記のとおりです。
（Ver.2.2から2.3への追加機能を記載してあります。）

注記：
表中に記載の取扱説明書は下記のファイルとして、GCsolutionとともにインストールされているものです。
PCセットには、これらのうち操作編冊子のみ標準添付されています。
　操作編　：　取扱説明書［操作編］, C:\GCsolution\Manual\GC_Operation.pdf
　機能編　：　取扱説明書［機能編］, C:\GCsolution\Manual\GC_Reference.pdf
　管理編　：　取扱説明書［管理編］, C:\GCsolution\Manual\GC_SysAdmin.pdf

1．　ランチャー画面を搭載

追加機能	取説該当箇所
GCsolution ランチャー画面を追加しました。GC 分析や GC 再解析などのアプリケーションは、GCsolution ランチャーから起動するようになりました。 注記： バージョン 2.21 以前からバージョン 2.3 にアップデートした場合、［分析１］などのデスクトップアイコンはそのまま残っています。それらのアイコンは引き続き使用可能ですが、ご不要の場合は削除してください。）	**操作編：** p.3-4 「2.1 GCsolution の基礎知識」 **機能編：** p.3-4 「1.2 GCsolution の起動」

2．　GC-2014 対応

GC-2014 は弊社の新型 GC で、GC-14B の後継機です。

追加機能	取説該当箇所
GC-2014 の制御機能およびデータ処理機能を搭載しました。	**機能編：** p.15 「4.〈環境設定〉（GC 分析）」 p.57 「5.〈データ採取〉（GC 分析）」 など

3．　CLASS-Agent データベース登録機能とシステム管理機能

追加機能	取説該当箇所
(1) CLASS-Agent データベースへの登録機能（自動登録、手動登録）を搭載しました。GCsolution から直接 CLASS-Agent データベースへの登録ができるようになりました。 注記： PC セットには CLASS-Agent マネージャがプレインストールされています。もし、何らかの理由で PC セットとしてご購入いただけないお客様で、この(1)項	**操作編：** p.57-58 「5.6 CLASS-Agent によりデータの確認を行う」 **機能編：** p.498-504 「12.4〈Agent 登録設定〉」 p.464 「11.3〈データエクスプローラ〉

と下の(2)項の機能をご使用の場合、別途CLASS-Agent マネージャの購入が必要です。	のメニュー」 **管理編：** p.47 「6.3 データの長期保存を検討しましょう」 p.52 「6.4CLASS-Agent を使ってみましょう」
(2) 島津ユーザー認証ツールに対応しました。ネットワークシステムを使用する場合、LCsolution など各島津ユーザー認証ツール対応ソフトウェアとのユーザーリストの共有ができるようになりました。	**操作編：** p.126-128 「12.3 ネットワーク対応モードの設定」
(3) システム管理機能を強化しました。システムポリシー設定に、「パスワードは要求する複雑さを満たす」「ＰＣ単位ロックアウト設定」「ユーザー単位ロックアウト設定」「重複パスワード管理回数」などを追加しました。	**機能編：** p.486-489 「12.2〈システムポリシー〉」
(4) ログブラウザ画面を追加しました。システム管理ログや装置ログなど、ログの表示と管理を行うログブラウザを組み込みました。	**機能編：** p.505-507 「12.5〈ログブラウザ〉」

４．　データ採取機能の強化

追加機能	取説該当箇所
(1) 簡易データ採取機能を搭載。GC 分析画面の開始ボタンを押して、分析スタンバイ状態にしていなくても、GC 装置からのスタートでデータ採取可能になりました。マニュアル注入にて分析を行う際、GC 装置の[Start]ボタンを押すだけでデータ採取できるようになりました。	**操作編：** p.44-45 「4.9 簡易データ採取機能について」
(2) バッチテーブルのアクション機能に再注入と Goto 機能を追加しました。	**機能編：** p.334-335 「9.10.6〈バッチアクション〉」

５．　データ解析機能の強化

追加機能	取説該当箇所
(1) グループ検量による定量をおこなう場合でも、定量方法として内部標準法が使えるようになりました。	**操作編：** p.68-70 「6.7 グルーピングを用いた定量に関する設定」
(2) 検出器チャンネル構成の異なるデータを使って検量線を作成できるようになりました。	**機能編：** p.19-23 「3.4 検量線を作成しましょう」
(3) 検量線の作成日時（更新日時）をメソッドファイルに記録しレポートにも印刷できるようになりました。	**機能編：** p.216 「6.5.4.1〈検量線情報の表示〉」 p.267 「7.4.1.1 検量線情報」 p.381

	「10.10.4〈メソッドのプロパティ〉ー[データ処理パラメータ]タブ」
(4) 検量線画面のデータファイルツリーの編集機能に全てのデータを削除するメニューを追加しました。また、レベル間でデータファイルをドラッグ＆ドロップできるようにしました。	**機能編：** p.270-271 「7.5〈検量線〉ー〈データファイルツリー〉ビュー」
(5) データ比較画面の拡大クロマトグラムに横スクロールバーを追加しました。	

6．　レポート機能の強化

追加機能	取説該当箇所
(1) バッチテーブルを表の形式で印刷できるバッチテーブルアイテムを追加しました。	**機能編：** p.387-392 「10.11〈バッチテーブルのプロパティ〉」
(2) メソッドアイテムの装置パラメータ印刷が、検出器や気化室などのユニット毎に、パラメータを選択して印刷できるようにしました。また、検量線データファイル名と検量線作成（更新）日時の印刷と、コメントおよび QAQC 設定を印刷するようにしました。	**機能編：** p.377-386 「10.10〈メソッドのプロパティ〉」
(3) 検量線アイテムで検量線グラフの XY 軸タイトルをメソッドの設定に自動で合わせるようにしました。	**機能編：** p.419 「10.16.4〈検量線のプロパティ〉ー[グラフ]タブ」
(4) サマリアイテムへ、データエクスプローラーからデータファイルをドラッグ＆ドロップして追加できるようになりました。	**操作編：** p.88 「8.3.4〈レポート作成〉での印刷」

7．　その他

追加機能	取説該当箇所
(1) GCsolution から MS 経由で GC 制御ができるようになりました。１台のパソコンを GCMSsolution と併用する場合、MS 制御を止めることなく GC 単体での分析に移行することができます。 注記： MS 検出器のデータ採取はできません。また、MS 検出器はライン２にのみ設定可能です。	**機能編：** p.20「4.3〈装置〉」
(2) メンテナンスガイドに GC-2014 に関する項目を追加しました。	
(3) CLASS-Agent データベースに、データファイルとともに PDF ファイルを自動登録する設定にしていると、GCsolution では印刷しない設定にしていても、PDF ファイルを出力し Agent データベースに登録するようになりました。	